

在宅医療福祉職が体験する臨床倫理的問題と倫理コンサルテーションのニーズ

武 ユカリ ● 森ノ宮医療大学 看護学部 看護学科 准教授



チームカンファレンスと多職種カンファレンス

1. 背景と目的

臨床倫理コンサルテーション (Healthcare ethics consultation: 以下、HCEC) は、患者、家族、代理人、医療従事者、その他の関係者がヘルスケアの中で生じた価値問題に関する不安や対立を解消するのを助ける、個人やグループの取り組みである。臨床倫理委員会が設置されている病院では、臨床で倫理的問題が生じたケースについて何らかの方向性や対応方法などを示すHCECを受けることができる。一方、在宅医療福祉の現場では小規模事業所が多く委員会の設置は難しいため、HCECを受ける機会はほとんどない。

在宅医療福祉職は療養者と家族の自律性を尊重し、各々の専門性を活かして支援を行うが、様々な考え方や価値観に沿って対応することは容易ではなく、日々の業務の中で様々な倫理的問題を感じていると考えられる。そしてその倫理的問題に個人で悩みながら、あるいはチームで検討しながら何とか対応しており、潜在的なHCECのニーズがあるのではないかと推察される。しかし、在宅医療福祉職の臨床倫理的問題に関する現状を示した調査は見受けられない。

また、医師、看護師、薬剤師、介護福祉士、介護支援専門員で、各職種によっては倫理綱領や指針が示されているものの、各教育課程における倫理教育は様々である。特に在宅医

療福祉に関わる臨床倫理問題について学ぶ機会はあまりなく、臨床倫理的問題に対する感受性は、個人の特性にもよるところが大きい。各職種で臨床倫理について学ぶ機会がどれくらいあるのか、学習の機会を必要としているかについての現状はあまり把握されていない。

本研究では、以下の点を明らかにする。

- 在宅医療福祉の職員が体験する倫理的問題の頻度とその対応。
- 在宅医療福祉の現場におけるHCECのニーズ。
- 在宅医療福祉の現場における倫理教育の機会と必要性。

2. 取り組みの方法

本研究では、無記名自記式郵送質問紙調査を行う。研究対象者は、在宅医療福祉に関わる医師、看護師、薬剤師、介護福祉士、介護支援専門員の5職種とする。質問項目は倫理的問題の体験頻度、事業所における臨床倫理的問題の検討、在宅医療福祉の現場におけるHCECのニーズ、在宅医療福祉の現場における倫理教育の機会と必要性について等とする。分析結果を整理し、「在宅医療福祉職のためのHCEC」冊子を作成し配布する。

3. 期待される成果

在宅医療福祉職の倫理的問題を体験とその対応、倫理教育の機会と必要性について明らかにし、各職種間の比較を行い、倫理的問題が生じた際の連携のあり方を検討することができる。また、在宅医療福祉職のためのHCECを実践するために何が必要なのかを、具体的に提案することが可能になる。